

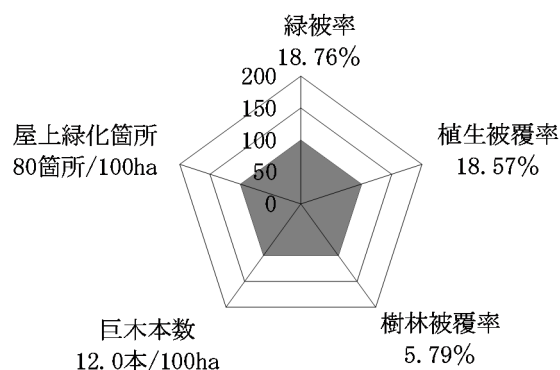
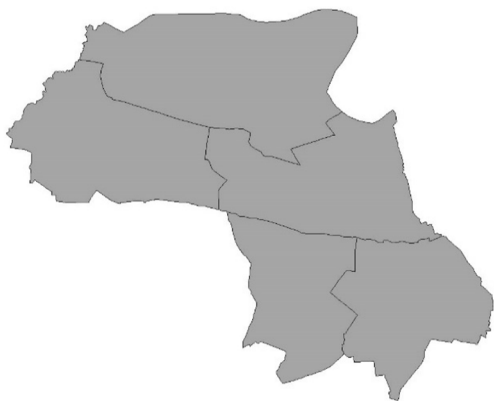
8 地域別の総合評価

ここでは、5 地域別にみた緑の現況をとりまく条件を整理することによって、緑に関するデータ（緑のデータ）を作成し、区平均値と比較した。それを区全域及び5 地域別の総合評価とし、次頁より記載する。また、その項目の内容を表 8-1 に示す。

表 8-1 緑のデータの項目内容

項 目	内 容	使用データ
基 礎 デ ー タ	地域における人口、面積、人口密度、地形状況等の緑をとりまく条件を整理した。	令和 6 年 1 月 1 日 現在
植 生 被 覆 率	地域における植生被覆地の割合を示すもので地域面積に占める植生被覆地面積の割合により、地域の植生被覆地総量を比較した。	令和 6 年度
緑 被 率	地域における樹木被覆地、草地、農地、屋上緑化の占める割合を示すもので地域面積に占める緑被地面積の割合により、地域の緑の総量を比較した。	令和 6 年度
み ど り 率	地域における公園以外の緑被地面積、公園以外の水面面積、公園面積の占める割合を示すもので、地域のみどり率を比較した。	令和 6 年度
樹 林 被 覆 率	地域における樹木被覆地面積 300 m ² 以上以上の樹林地を面積規模別の箇所数と面積を示し、地域面積当たりの樹林面積の割合により、地域の樹林面積総量を比較した。	令和 6 年度
大 径 木 の 本 数	地域における地上 1.5m の高さにおいて直径 90cm 以上の大径木本数を幹周別に示し、100ha 当たりの大径木により比較した。	令和 6 年度
屋 上 緑 化	地域における屋上緑化の箇所と面積を示し、100ha 当たりの箇所数により比較した。	令和 6 年度

板橋区全域



地域の状況

板橋区は都心から約10kmに位置しており、古くから各種産業が発展している。東武東上線、都営三田線の沿線及び駅前を中心に多くの商店街を有していて、5つの鉄道路線があり、交通の利便性が高い。そのため、住宅都市として適しており、工場用地から住宅用地への転換、農地の宅地化が続いており、住宅用地が拡大している。

緑の状況

本区は武蔵野台地と荒川の沖積低地で形成されており、崖線沿いの樹林地、23区内では少なくなった農地が織りなす独特の緑が特徴的であった。近年は宅地開発によってこれらの貴重な緑が減少している。また、建築計画等に伴い新たに緑地の整備が行われているが、同時に樹木や樹林の伐採によって、増加面積より減少面積が上回っており、樹木被覆地の減少が特に大きい。

緑の課題

崖線沿いの樹林地、荒川・石神井川の水辺環境、区西部を中心に点在する農地や屋敷林、各地域に分布する公園緑地等の貴重なみどりを保全していく必要がある。特に、屋敷林や農地の住宅開発によって、民有地のみどりの減少が大きく、緑被率は減少している。緑化環境の向上をはかるには、庭木や生垣、屋上緑化などの民有地の緑化をはじめとして、緑の創出を積極的に進めていくことが求められている。

(基礎データ)

人口(人)	572,927
面積(ha)	3,220.0
人口密度(人/ha)	177.9
地形状況	台地・崖地・低地

(樹林地箇所／面積300㎡以上)

上段:箇所数、下段:面積

500㎡未満	500㎡～1000㎡	1000㎡～3000㎡	3000㎡以上	合計
903 箇所	550 箇所	292 箇所	84 箇所	1,829 箇所
34.72 ha	37.20 ha	45.49 ha	69.06 ha	186.47 ha
樹林被覆率(%)				5.79

(緑被率・植生被覆率・みどり率)

項目	面積(ha)	率(%)
緑被地	603.97	18.76
樹木被覆地	415.80	12.91
草地	162.99	5.06
農地	15.19	0.47
屋上緑化	9.99	0.31
裸地	100.25	3.11
水面	69.45	2.16
植生被覆地	598.03	18.57
みどり率	734.42	22.81
緑被率の変化状況	R01	R06
	19.37	18.76

(大径木の本数)

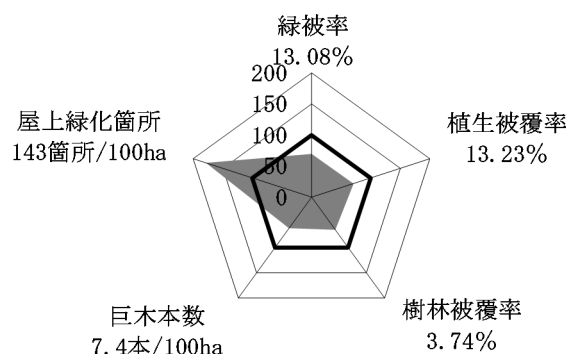
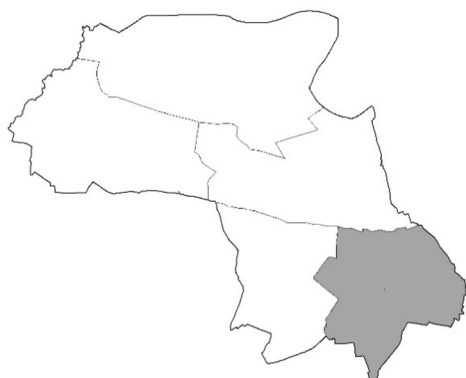
単位:本

280cm未満	280～320cm	320～350cm	350～400cm	400cm以上
64	168	79	51	26
合計				388
100ha当たり本数				12.0

(屋上緑化)

箇所	面積(ha)
2,588	9.99
100ha当たり箇所数	80

板 橋 地 域



地域の状況 江戸時代から旧中山道の板橋宿や加賀金沢藩下屋敷として栄え、その後、中山道や川越街道沿いを中心に市街化が進んできた。板橋区役所、区立文化会館、グリーンホール、東板橋体育館や図書館等の区立施設や、警察署、消防署、税務署など国や東京都の機関、多数の医療・福祉施設が立地し、公共サービス機能が集積する地域である。また、大山駅を始めとした東武東上線各駅、JR板橋駅、旧中山道沿いの商店街を中心とした小売業や事業所等、さまざまな商業・業務機能も集積している。

緑の状況 緑被率(13.08%)、植生被覆率(13.23%)ともに5地域の中で最も低く、加賀1,2丁目周辺等一部の地域を除くと、まとまった緑が少なく、緑被率が10%未満の町丁目が多い。主な緑被地は、石神井川周辺の公園緑地や区立小中学校、都健康長寿医療センターをはじめとした大規模な医療施設である。巨木本数は高島平地域より少なく、5地域中、最も緑が不足している地域といえる。しかし、屋上緑化箇所は5地域で最も多く、屋上緑化面積も2番目に大きく、病院や大学に大規模な屋上緑化が整備されている。

緑の課題 ○石神井川周辺の緑を保全し、緑の質向上に努める必要がある。
○公園・緑地の適正な維持管理を図るとともに、緑の少ない道路等への緑化を推進する必要がある。
○緑の少ない町丁目では、庭木や生垣等、緑化強化を図り、地域内の緑の量を増やしていく必要がある。
○屋上緑化の進む地域であるため、適正な維持管理のほか、大規模施設への導入に努める必要がある。

(基礎データ)

人 口 (人)	131,922
面 積 (ha)	526.0
人口密度(人/ha)	250.8
地 形 状 況	台地・崖地・低地

(樹林地箇所／面積300㎡以上)

上段: 箇所数、下段: 面積

500㎡未満	500㎡～1000㎡	1000㎡～3000㎡	3000㎡以上	合計
113 箇所	69 箇所	48 箇所	8 箇所	238 箇所
4.19 ha	4.54 ha	7.42 ha	3.54 ha	19.69 ha
樹林被覆率(%)				3.74

(緑被率・植生被覆率・みどり率)

項目	面積(ha)	率(%)
緑被地	68.80	13.08
樹木被覆地	57.42	10.92
草地	8.85	1.68
農地	0.00	0.00
屋上緑化	2.53	0.48
裸地	15.28	2.91
水面	3.10	0.59
植生被覆地	69.58	13.23
みどり率	78.56	14.94
緑被率の変化状況	R01	R06
	13.86	13.08

(大径木の本数)

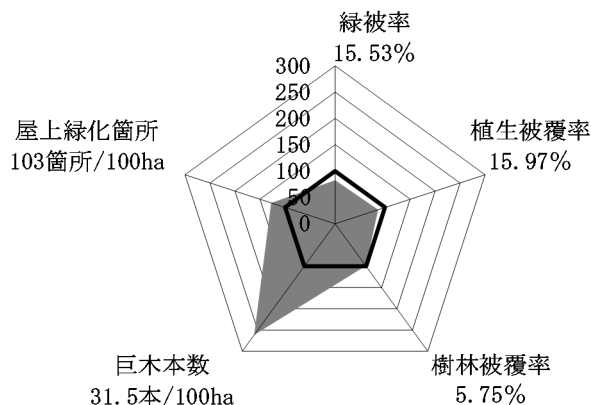
単位: 本

280cm未満	280～320cm	320～350cm	350～400cm	400cm以上
2	23	10	3	1
合計				39
100ha当たり本数				7.4

(屋上緑化)

箇所	754	面積(ha)	2.53
100ha当たり箇所数		143	

常 盤 台 地 域



地域の状況

川越街道や東武東上線の駅を中心に住宅地として開発が進み、都立城北中央公園、板橋区平和公園、石神井川、沿道の街路樹といった公共空間における自然資源に恵まれた緑とおいしいのある地域である。

緑の状況

都立城北中央公園、向原団地、心身障害児総合医療療育センターの施設緑地、板橋区平和公園、茂呂山公園等の公園が緑の拠点となっている。緑被率は15.53%で2番目に低く、緑被率10%未満の町丁目もいくつかある。巨木は5地域中最も多い。樹林率は区全域の値とほぼ同率であり、屋上緑化箇所数は5地域の中で3番目に多いが、緑化面積は最も少なく、小規模な屋上緑化が多い。

課題

- 緑の少ない町丁目では、庭木や生垣等、緑化強化を図り、地域内の緑の量を増やしていく必要がある。
- 屋上緑化の適正な維持管理を図りつつ、大規模施設への導入を推進する必要がある。
- 石神井川の水辺空間の整備を推進し、緑の質向上を図る必要がある。
- 巨木・名木の多い地域であるため、適正な維持管理に努める必要がある。

(基礎データ)

人 口 (人)	87,001
面 積 (ha)	466.0
人口密度(人/ha)	186.7
地 形 状 況	台地・崖地・低地

(樹林地箇所／面積300㎡以上)

上段:箇所数、下段:面積

500㎡未満	500㎡～1000㎡	1000㎡～3000㎡	3000㎡以上	合計
115 箇所	64 箇所	37 箇所	12 箇所	228 箇所
4.43 ha	4.30 ha	5.58 ha	12.48 ha	26.79 ha
樹林被覆率(%)				5.75

(緑被率・植生被覆率・みどり率)

項目	面積(ha)	率(%)
緑被地	72.36	15.53
樹木被覆地	62.72	13.46
草地	8.20	1.76
農地	0.32	0.07
屋上緑化	1.12	0.24
裸地	13.31	2.86
水面	2.90	0.62
植生被覆地	74.43	15.97
みどり率	82.90	17.79
緑被率の変化状況	R01	R06
	16.20	15.53

(大径木の本数)

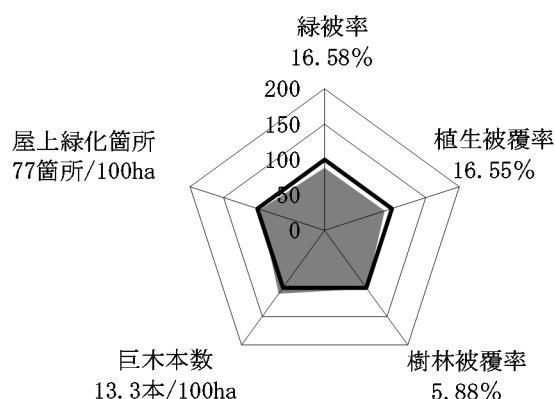
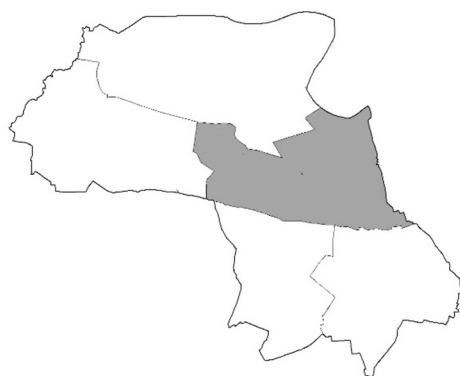
単位:本

280cm未満	280～320cm	320～350cm	350～400cm	400cm以上
33	65	21	20	8
合計				147
100ha当たり本数				31.5

(屋上緑化)

箇所	479	面積(ha)	1.12
100ha当たり箇所数	103		

志 村 地 域



地域の状況 戦前から区の工業の中心地として印刷・機械工業などの産業が立地し、戦後から近年にかけて、工場の郊外移転や跡地の土地利用転換により、共同住宅や業務ビルなどの開発が進み、住・商・工が混在する市街地となった。地域には、工場のほか、志村一里塚や志村三泉（薬師の泉庭園、出井の泉公園、見次公園）などの歴史・自然の資源、エコポリスセンター、おとしより保健福祉センター、志村ふれあい館などの区有施設が位置している。

緑の状況 主な緑被地は、サンシティ、志村城山公園と隣接する熊野神社から小豆沢公園、小豆沢神社にかけての斜面緑地である。地域西端の西台には農地の分布が多く、地域の北西部に比較的緑被地が多い。緑被率(16.58%)、植生被覆率(16.55%)は区全域の値を下回るものの、樹林率、大径木本数、屋上緑化率は区全域の値をやや上回っている。

課題 ○緑の拠点でもある崖線沿いの樹林地の適正な維持管理を図り、保全していく必要がある。
○大規模施設への屋上緑化導入を図り、箇所数、規模の拡大に努めていく必要がある。
○中山道沿いの大規模工場と密集住宅地では緑化を推進し、緑の量を増やしていく必要がある。
○新河岸川の水辺空間と公園・緑地の一体整備を推進し、より良い親水空間創出に努める必要がある。

(基礎データ)

人 口 (人)	124,539
面 積 (ha)	646.0
人口密度(人/ha)	192.8
地 形 状 況	台地・崖地・低地

(樹林地箇所／面積300㎡以上)

上段:箇所数、下段:面積

500㎡未満	500㎡～1000㎡	1000㎡～3000㎡	3000㎡以上	合計
197 箇所	148 箇所	61 箇所	18 箇所	424 箇所
7.57 ha	9.81 ha	9.38 ha	11.26 ha	38.01 ha
樹林被覆率(%)				5.88

(緑被率・植生被覆率・みどり率)

項目	面積(ha)	率(%)
緑被地	107.12	16.58
樹木被覆地	90.35	13.99
草地	12.68	1.96
農地	2.07	0.32
屋上緑化	2.01	0.31
裸地	15.43	2.39
水面	3.83	0.59
植生被覆地	106.90	16.55
みどり率	119.74	18.54
緑被率の変化状況	R01	R06
	16.89	16.58

(大径木の本数)

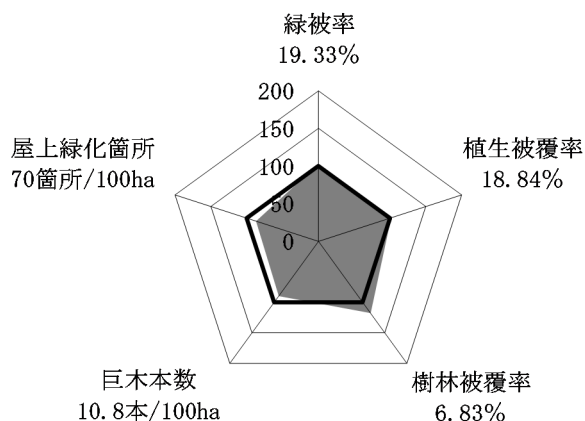
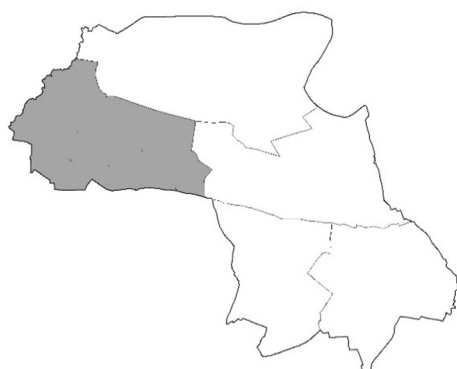
単位:本

280cm未満	280～320cm	320～350cm	350～400cm	400cm以上
11	33	17	21	4
合計				86
100ha当たり本数				13.3

(屋上緑化)

箇所	498	面積(ha)	2.01
100ha当たり箇所数		77	

赤 塚 地 域



地域の状況 武蔵野台地の東北部に位置し、東武東上線や川越街道沿いの商業・業務などの都市機能が集積する地区、後背地の住宅地地区、戦前からの農地や樹林地など豊かな緑が残る武蔵野台地の崖線で構成されている。赤塚溜池公園、都立赤塚公園を中心とする崖線の緑と湧水のある良好な景観が地域の特徴である。また、赤塚城址及び周辺の寺社、郷土資料館、美術館など文化施設が集積し、自然・歴史・文化資源に恵まれた地域となっている。

緑の状況 主な緑被地は都立赤塚公園、成増五丁目アパートと隣接する公園であり、帯状に貴重な緑の拠点を形成している。また樹木被覆率、農地率は5地域中で最も高く、農地(11.95ha)は区全体の約8割を占める。緑被率(19.33%)、植生被覆率(18.84%)、樹林率(6.83%)は区全域の値よりやや高い。、巨木本数は区全域の値よりやや少なく、屋上緑化箇所、面積は5地域中2番目に少ない。

課題 ○緑の拠点でもある崖線樹林地の適正な維持管理を図り、保全していく必要がある。
○区農業を支える地域として農地を保全し、農地の持つ多面的機能を発揮できる環境を整備する必要がある。
○屋敷林も多く確認され、生物多様性の観点から、保全していく必要がある。
○川越街道等の幹線道路沿いでは緑の空白域も確認されるため、緑の量を増やしていく必要がある。

(基礎データ)

人 口 (人)	119,448
面 積 (ha)	657.0
人口密度(人/ha)	181.8
地 形 状 況	台地・崖地・低地

(樹林地箇所／面積300㎡以上)

上段: 箇所数、下段: 面積

500㎡未満	500㎡～1000㎡	1000㎡～3000㎡	3000㎡以上	合計
223 箇所	110 箇所	60 箇所	17 箇所	410 箇所
8.55 ha	7.57 ha	9.91 ha	18.87 ha	44.89 ha
樹林被覆率(%)				6.83

(緑被率・植生被覆率・みどり率)

項目	面積(ha)	率(%)
緑被地	127.01	19.33
樹木被覆地	98.17	14.94
草地	15.70	2.39
農地	11.95	1.82
屋上緑化	1.18	0.18
裸地	19.18	2.92
水面	0.88	0.13
植生被覆地	123.78	18.84
みどり率	135.75	20.66
緑被率の変化状況	R01	R06
	20.46	19.33

(大径木の本数)

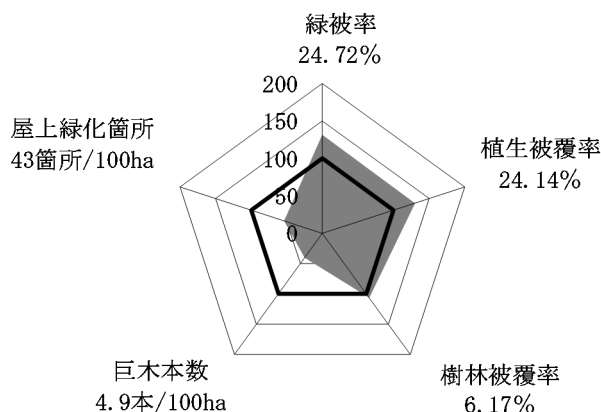
単位: 本

280cm未満	280～320cm	320～350cm	350～400cm	400cm以上
9	27	19	5	11
合計				71
100ha当たり本数				10.8

(屋上緑化)

箇所	459	面積(ha)	1.18
100ha当たり箇所数		70	

高 島 平 地 域



地域の状況

高島平は板橋区の北西部に位置し、1968年の都営地下鉄三田線志村駅(現:高島平駅)の開業以降、1972年には高島平団地を中心とした住宅開発が進んだ。一方、戦前まで水田であった荒川、新河岸川沿いや中山道沿道には、戦後大小の工場が立地した。

緑の状況

荒川河川敷の広大な緑地が緑の拠点となっている。地域の南西部に位置する高島平団地、都立赤塚公園も緑の拠点を形成している。緑被率、植生被覆率は5地域の中で最も高いが、樹木被覆率は低い。敷地規模の大きい工場、供給処理施設、集合住宅が多く分布することから、屋上緑化の箇所数は5地域の中で最も少ないが面積は最も多い。一方で巨木の分布は少ない。

緑の課題

- 工場や浄水場等、大規模施設での屋上緑化の適正な維持管理に努め、箇所数を増加させる必要がある。
- 緑の少ない町丁目では、庭木や生垣等、緑化強化を図り、地域内の緑の量を増やしていく必要がある。
- 荒川、新河岸川の水辺空間の整備を推進し、緑の質向上に努める必要がある。

(基礎データ)

人 口 (人)	110,017
面 積 (ha)	925.0
人口密度(人/ha)	118.9
地 形 状 況	低地

(樹林地箇所/面積300㎡以上)

上段:箇所数、下段:面積

500㎡未満	500㎡～1000㎡	1000㎡～3000㎡	3000㎡以上	合計
255 箇所	159 箇所	86 箇所	29 箇所	529 箇所
9.98 ha	10.99 ha	13.21 ha	22.91 ha	57.09 ha
樹林被覆率(%)				6.17

(緑被率・植生被覆率・みどり率)

項目	面積(ha)	率(%)
緑被地	228.68	24.72
樹木被覆地	107.14	11.58
草地	117.56	12.71
農地	0.84	0.09
屋上緑化	3.14	0.34
裸地	37.05	4.00
水面	58.75	6.35
植生被覆地	223.33	24.14
みどり率	317.48	34.32
緑被率の変化状況	R01	R06
	25.04	24.72

(大径木の本数)

単位:本

280cm未満	280～320cm	320～350cm	350～400cm	400cm以上
9	20	12	2	2
合計				45
100ha当たり本数				4.9

(屋上緑化)

箇所	398	面積(ha)	3.14
100ha当たり箇所数	43		